



支部長あいさつ

大崎市民病院岩出山分院 末永 慶子

春が待ち遠しい日々が続きます。COVID-19 のパンデミックから私達の生活は以前に戻りつつあります。しかし自然災害やその他の脅威にさらされている状況が続いています。そのような中で危機対応能力の向上や地域のネットワーク強化が重要となります。今年度は全国訪問看護事業協会副会長 高砂裕子先生をお招きし、【在宅医療を支える看護師に期待されること～マネジメントスキル向上を目指して～】のテーマで在宅医療を支える看護師連携研修会を行いました。その中で「地域連携ケアシステムを地域の特性に応じて作り上げて行くことが必要」と話されていました。この“大崎システム”の構築を進めていけるよう次年度も色々な活動を計画してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。



## 研修会報告

大崎市医師会・大崎市・看護協会大崎支部共催合同研修会では、全国訪問看護事業協会副会長 高砂裕子先生を講師に迎え、【在宅医療を支える看護師に期待されること～マネジメントスキル向上を目指して～】をテーマに医師、病棟・外来・訪問看護師、保健師、作業療法士など約 50 名が参加し、2024 年度からの第 8 次医療計画を見据えた在宅医療について医療の担い手としての役割を考えました。グループワークでは、在宅生活中の高齢夫婦の服薬支援の事例の話し合いの中で、病院・施設それぞれの場で担う看護について理解し合い、患者や利用者へ必要なケアを共に考えました。医療を受ける場は病状により、急性期・回復期・慢性期の機能を持つ病院、診療所や施設、在宅医療と様々です。その中で看護師の果たすべき役割は多岐にわたることも改めて実感しました。そして看護師間の情報共有の重要性を学ぶよい機会となりました。講演の中にあつた地域の特性から医療ニーズを考えると、人口減少や少子高齢化が続く大崎地域の課題が見えてきます。1 市 4 町の高齢化率の差は大きく鳴子温泉地区の一部地域では 60% を超える所もあります。そして在宅医療を担う医師・看護師不足も深刻な問題です。各職種や関係機関がチームとなり専門性を発揮していくこと、限られた医療資源の中で人材育成を進めることはケアの質向上へつながり、地域の人々の生活を支えるために重要となります。「安心して医療が受けられる大崎地域」の実現を目指し地域連携の輪を広げ協力体制を構築していきたいと思ひます。



## まちの保健室

令和5年10月21日大崎市健康と福祉のつどいに参加しました。会場では骨密度測定コーナーを設け18～90歳代、110名とたくさんの地域の皆様にご足運びいただきました。来場された皆様からは、日々の食事や運動などについてご相談があり、生活改善の指導を行いました。地域の皆様の健康に対する関心の高さを実感し、生活ニーズに応えることができたと感じています。今後も様々な活動を通して、地域の皆様の健康づくりに貢献できるように取り組んでいきます。



## 卒業生へお花の贈呈をします



令和5年度大崎市医師会附属高等看護学校の卒業式が令和6年3月に行われます。入学してから3年間、専門的知識や看護技術を学び充実した学生生活を送ったことと思います。大きく成長した皆さんが看護の力を発揮する姿を楽しみにしています。皆さんの今後のご活躍を祈りお祝い申し上げます。



## 新しい年を迎えて



令和5年5月COVID-19が5類感染症に移行し日々の生活が戻りつつある中、新しい年を迎えました。穏やかな1年になる事を願っていましたが、令和6年1月1日能登半島地震が発生しました。私たちも東日本大震災を経験し、被災した地域の方々、医療従事者の方々を思うと心苦しく思う日々が続いています。私たちはいつ起こるかわからない自然災害に対し、ひとり一人が防災意識を高く持ち、災害対策につとめていくことが必要です。こんな時だからこそ自施設の防災備品チェックや災害時対応について振り返ってみませんか。私たち医療者にできる事を一つ一つ考えていきましょう。そして大崎支部では今年度も、顔の見える関係づくり・ネットワークの強化を課題につながりを大切に活動していきます。皆様のご理解ご協力をよろしくお願い致します。

